

昭和31年9月15日	前橫	市廣	報 (毎月一日十五日發行) 第123號 (2)
	たしよう、という運動が強つて う年で六回目になります。今年は	●日時・十月二十一日(日)午前 九時開会(南天の時は十一月十 八日)	はたの この大会に日常素にたっ この大会に 日 (日) 午前 日 (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日
日馬第広福津 第馬第広福津 参の多い市公司 書さんの警を 着さんの警を 着さんの警を たたかないと たたかないと 加 にない 電で、 着で、 一覧で、 着で、 の の の の い に 和 に ない の の の の に な 売 の の の の の に な 売 の の の の の に か に の の の の に か に の の の の に か に の の の の に か に の の の の の に の 行 い し れ は こ れ に か に の で う の の の の で う の の の い か に い こ れ は こ の の の の に の で の で し の で し の で の で の の の の の の の の の の の の の	イリント しよりの福祉 「としよりの福祉 の記念行事近行われますが、本市 の記念行事近行われますが、本市	1	
ます。これは県政をよりようにあるため、県下各 地に公職有を設置しました。本市には、最も人通 着見、苦情等、県政に関することを逮屈なく投善 着見、苦情等、県政に関することを逮屈なく投善 着見、苦情等、県政に関することを逮屈なく投善 着し、苦情等、県政に関することを逮屈なく投善 着い、苦情等、県政に関することを逮屈なく投善 その多い所として直編商工会運所前に設けてあり ます。これは県政をよりようするための建設的な の多件は の多件は の多件は の多件は の多件は こと (もしお書きになつてい ただかないと正式に取りあつかいますん) ご上の通りですが、調和日を毎月十日、二十日、 ご上の通りですが、調和日を毎月十日、二十日、 ご上の通りですが、調和日を毎月十日、二十日、	イ以上出日の 一では、今年は各町内にお願いし、「いますが、東市城は重要の都合 では、今年は各町内にお願いし、「いますが、東市城は重要の都合 では、今年は各町内にお願いし、「いますが、東市城は重要の都合 では、今年は各町内にお願いし、「いますが、東市城は重要の都合	1	
日よら八月三十日までの11十三 両に亘り玉麗いたしましたが、 の感謝は沢の通うでした。 独省対象名数 11、三三五名 同 受検器数11、六〇玉器 同 受検器数11、六〇玉器 同 受検器数11、六〇玉器 町普及の為の「議酒公厩画の会 な次の日割で旧市内六カ府で通 するしとになりましたので、多 するしとになりましたので、多	旧市では 上のなり	-	
	一 從 化 一一	小麦子町 第37 二川町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 二 〇 〇 〇 二 〇 〇 〇 二 〇 町 町 町 町	第四次自然 第四次自然 第四次自然 第四次自然 第四次自然 第四次自然 第四次自然 第四次自然 第四次自然 「雪麗王、称王、航空」 の通ら行つています。 文括用人員 「雪麗王 約 七、 二雪麗王 第月 日子 二丁二丁二〇万万 二丁二丁二〇万 二丁二〇万 二丁二丁二〇万 二丁二丁二〇万 二丁二丁二〇万 二丁二〇丁二〇万 二丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇丁二〇
(予定) こ、出品種目 酸類、いる類、 二、出品種目 酸類、いる類、 二、期日 十月下旬 二、蜀日 十月下旬 二、蜀日 十月下旬 二、蜀日 十月下旬 二、蜀日 十一月下旬 二、蜀日 十一月下旬 二、蜀田 十一月下旬 二、蜀田 十一月下旬 二、蜀田 十一月下旬 二、蜀田 十一月下旬 二、三四國畜種 豚、麵羊、四羊四人小小豆、一次水園面酒主寺町家畜 二、三四國畜種 豚、麵羊、四羊四人小小豆、一人小小豆、一人小小豆、一人小小豆、一人小小豆、一人小小豆、小小麦、	ス、その豊作物の出来はえを共に 高び、更に来年の編進のために市 の主催のもとに次の共進会がひら かれます。農家の皆さんがとそつ て参加下さるような原い致します 、期日 十一月下旬 一、期日 十一月下旬	實りの	する す す す す す す す 支 村 新聞 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
登測が流行しますが、今年は運知 よりも赤額の差生が多く、 八月中に赤痢七名、駐仏示痢四 名、疫痢王名、計十六名 九月に入つと十日までに赤痢三 名、疫痢二名、計十六名 満生しました。又一月からの患者 差生しました。又一月からの患者 差生しました。又一月からの患者 を合計しますと、 赤痢二十二名、凝赤痢十一名、 授類十名、温紅素王名、ジフテ リア王名、流行性服災一名、日 本陥況二名、計三十七名(内委 第一名死亡) で、昨年に比べて実に六十九名も 少い状況ですが、本当に流行する のは、むしろこれからですから、	●本内に、医療ー務に未知 ●本内に、医療・農技術調 一般の一般ので調量 一般の一般ので調量 一般の一般ので調量 一般の一般ので調量	の秋を迎え	自由計量のによって正しい主語の一日の計量 川町第二百年三月の所 二カ所
Environmental and a second s	きっちのでよから、 要有測量を近く市内で実施する 重通知がありましたので、市日音 さんの御屋力を音運しています。 (製飾工未得) のの御屋力を音運しています。	主催で開催	うう。 「「たいでのです」 「たいでのです」 「たいでのです」 「たいでのです。 「ないう自由にお使いてするよう。 「ないます。」 写真に出来前の日本 「でるよう。 「雪」 「たいでのです。 「雪」 「たいでのです。 「雪」 「たいでのです。 「雪」 「たいでのです。 「雪」 「たいでのです。 「雪」 「たいでのです。 「雪」 「たいでのです。 「雪」 「たいでのです。 「「」のでのです。 「でのです。 「でのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。」 「でのでのです。 「でのでのでのです。 「でのでのです。 「でのでのです。」 「でのでのです。 「でのでのでのでのです。 「でのでのでのでのでのです。 「でのでのでのでのでのでのです。 「でのでのでのでのでのです。 「でのでのでのでのでのでのです。 「でのでのでのでのででのです。 「でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのです。 「でのでのでのでのでのでのでのでのでのです。 「でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの
は 「市民の要 に 「市民の要 に 「市民の要 に 「市民の要 」 しても敷増問題等 しても敷増問題等 しても敷増問題等 しても敷増問題等 しても敷増問題等 してすが要念ながら しても敷増問題等 してすが要念ながら してすが要念ながら してすが要念ながら しません。是非書の します。 一	し、又をすきなが 「「「「「「」」」、 「「」」、 「」、 「	電話線の 電話線の	*納稅取扱機關一覽*

